

# 令和4年度

園番号

15

園名 薬科こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
豊かな心たくましく伸びる子	自分で・みんなで・もっとやりたい～自信・意欲 優しさいっぱい～	豊かな自然を生かした体験や五感に触れる経験を通し発見や感動等、一人一人の豊かな感受性を引き出し自分から試し、考え、工夫して 意欲的にあそぶ	○季節が変化の中で、園内や地域の自然を活かし、四季折々の季節に合った活動を積み重ね、自然物に興味を持って触ったり遊びに使ったりする中で気づきや発見につながる姿が見られている。今年度は玉ねぎ染め・藍染など染物をしたことで身近な自然物の新しい活用方法を知ることが出来た。また発達に応じて保育者がさりげなく関わることで次第に子ども自身や友だちと考え遊びが発展している	A	A	・「豊かな心たくましく伸びる子」のめざす姿について全職員が共通理解し、同一歩調で一貫性、系統性のある指導を行っている。職員一丸となった子どもに寄り添う保育活動で、子供が健やかに成長している ・子どもたちの好奇心を刺激し、遊びが発動する環境づくりを常に心掛けている。子どもの思いが発動すると、個々の興味関心や自発性、創造性に沿って遊びを広げ、適切な声掛けと支援で発展させている。道具や材料等、安全で意欲を継続させることのできる場、次の活動を引き出す場も整えられており、ダイナミックで豊かな活動が展開できている。特に地域の自然を活かした活動は本園でこそできる体験であり、子どもの五感を刺激し感性を豊かに育てている。 また、友だちとの関わりが生まれる場、自分の思いを伝える場を意図的に設定し、時には異年齢の関わりも取り入れながら、活動を設計している。職員一人一人に寄り添い、気持ちや感動に共感し、言葉で膨らめる支援をしている。そのため、他者との関わりの中で、表現意欲が高まったり、他者と協働する良さを実感したりすることが出来ており、これが自己肯定感を高め、自分とは違う他者に気持ちいいやりやりの心を育むことにつながっている。	・地域や園の特性を活かした自然体験で経験したことを遊びに取り入れられたり、観察したりする中で、子どもたちの発見や感動に保育者も共感しその思いに寄り添いながら、子どもの「もっとやりたい」という発信を受け止め、意欲的な遊びの展開につなげていけるようにしたい
		身近な環境に主体的に関わり自分の興味関心を充実させ、豊かな感動体験や創意工夫を重ねて夢中になってあそぶ	○身近な自然に興味を持ち、疑問に思ったことを自分で図鑑などを使って調べて友だちや保育者に感動を言葉にしている伝える姿がある。今年度もたけのこ掘り、芋掘り、地域の茶畑・田植えを見に行くなど、実際に自然と触れ合うことが出ている。また、保育教諭が遊びの様子によって素材や材料を準備し手に取れるよう環境を整えたり、子どもの興味関心を引き出し、一人一人の子どもが自分の思いを言葉で表現できる主体的な姿につなげる働きかけを行ったりすることで、自分で遊びを見つけるようになり、「こうなったから次はこうしてみよう」と次への意欲につながるようになってきている	B	A	・子どもの好奇心や探求心を刺激した、意欲的な遊びが展開できるように、保育者は一人一人の育ちを十分認めた上で、必要な環境を整え、保育者が関わるタイミングや環境の再構成を意識した保育の援助を心がけていきたい	
		友達と関わる中で自分の思いや考えを伝え、協力したり、相手への思いやりの心が芽生える。また、苦手な事に対しても、自分で考え解決しようとする	○すぐにあきらめず挑戦しているよう時間や場を意図的に設けることで諦めずやり遂げようとしていたり、苦手なものに対しては保育教諭に助けを求めるとはあきらめず、友だち同士で乗り越えていけるような声掛けをする中で少しずつ自分で考え解決しようとしている姿につながっている。また、自分の思いを相手に伝えようとして、友だちが困っているときなど相手思いやる姿もある。 ●相手の気持ちになかなか気づくことが出来ないことがあったり、人への思いやりの気持ちがまだ弱いこともある	B	A	・友だちに対しては相手の良さに気づくことのできるよう、遊びの振り返りをしたり、帰りの会で認め合ったりするなどして個々の自己肯定感を高め、今年度の教育目標である自信・意欲・思いやりを育むようになってきているので、来年度も引き続き、子どもたちの「もっとやりたい」という思いの実現に寄り添っていききたい	

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）	
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の興味や関心に寄り添い安心して自己実現できる様発達を繋がり意識した教育及び保育の環境を整えていく	○子どもの発達や興味関心に基づき月案立案を立て、発達に合わせた教材や扱いやすい素材や環境を用意したり興味や関心を引き出す関わりをしたりすることで、子どもの興味に添った遊びが広がっている。また年齢別の保育を主としながらも、他学年と自然に関わりながら保育をすすめている ○保育者が子どもの言葉や表情による表現を受け止めたり、同じ目線で成功の喜び（達成感）感動・不思議さを感じ共有したりすることで、安心して園生活を送ることが出来るようになっていく ●保育者が関わり過ぎず、引いてみる・見守る等の立ち位置の意識を持つ必要がある	B	A	・どの年齢でも、一人一人の興味関心を大切に活動を行うため、丁寧な保育計画を立てている。子ども達は、経験を活かしながら試したり工夫したりして遊びに没頭し、自主性や創造性、思考力や道義力を伸ばすことが出来ている。職員は、発達段階に合わせた支援の方法を考え、実践し、共有することで、園全体で系統性のある指導に取り組むことが出来ている	・毎月月案立案等の保育計画を立て、月案検討・週案検討におろす中で各学年の発達を抑えた遊びを通して、遊びの展開図なども使いながら園全体で遊びの環境を共有し一人一人の自己実現につなげていく	
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	子どもが自分で身支度や後始末ができる動線や環境を工夫し、一人一人に寄り添った手だてや言葉かけを行い、規則正しい生活リズムの習慣的が身につくようにしていく	○生活に合わせた動線を考えて環境作りや視覚支援など、一人一人に合わせた対応を心掛け、子どもがわかりやすく自分で身の回りの始末ができるよう工夫している。また子どもたちの成長に合わせて室内環境を再構成することで、子どもたちが過ごしやすいく保育環境となるようにしている ●声をかけすぎないように意識し、自分で考えて行動するように心がけることで、すすんで身支度などをする姿につながっている一方で、まだ声の掛け過ぎや援助し過ぎてしまうことがあるので、自身の保育の振り返りを大事にする必要がある	B	A	・少人数はゆえに声のかけすぎや援助のし過ぎになりやすい傾向が出てしまったりはやむを得ない。一方で、視覚に訴える環境づくりが丁寧なされており、子どもたちが楽しく着る環境を整えている。家庭との連携も密に取り、その日の健康状態や一日の様子などの伝達を丁寧に行っている	・保育者同士で子どもの発達状況を共有し、個々に合わせた援助を心掛けていく。身の回りのことを自分でやろうとする姿を認めたり自分でできるという意欲につなげている ・1号児、2号児の生活形態の違いを考慮し、個々に合った生活リズムを実践できるようにしている。家庭との連携も密に取り、その日の健康状態や一日の様子などの伝達を丁寧に行っている
		(3)環境を通して行う教育及び保育	園内外及び地域の自然に触れる体験を十分に取り入れ、発見や感動体験を十分に感じながら意欲や自信に繋げられる様にしていく	○豊かな自然の中、たけのこ掘り・いも掘り・飯間出川で行う出川探検等の体験から、生き物を身近に感じ、様々な自然に触れる機会を通して、植物や生物への関心が深まり、自分なりに調べるなどして発見や感動を共有しようとする姿が見られている。また、保育教諭が一人一人の子どもに興味関心や得意な面を見つけ自信につなげる関わりを心掛けることで意欲につながっている ●園外保育など、園外に出る機会が少なかったため、地域の自然に十分に触れられていない	B	B	・豊かな自然環境を活かして貴重な体験活動が行われている。さらには行事以外の日々の活動の中で子どもが自ら環境と関わり、遊び込む姿が見られるとよりよい、保育参観で水を撒いて水を作るという遊びがみられたり、季節の変化を利用しちよっと工夫した遊びを提案するなど、子どもの体験の幅を広げ、感動や喜びを与えてほしい	・地域の自然を活かした豊かな感動体験を積み重ねたり経験したことを遊びの中に取り入れられたり、自然を教材に取り入れ、遊びが広がる保育環境を整えていく ・園外への散歩の機会を増やし、四季折々の地域の自然に触れる体験をもっと増やしていきたい
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	安全教育や衛生教育については、実践の中から、一人一人が自分の身は自分で守る等の意識を高め、命の大切さを子ども自身が感じられる様にしていく	○毎月避難訓練や消防・警察との訓練を行い、ヘルメットのかがり方、火災・地震・不審者によって異なる避難の方法を身につくようにし、保育者の指示だけでなく自分で考えて行動できるようにしている。職員間でも、ヒヤリハット場面を出し合い、安全面について確認や共有をして対策を立てている ●想定外のことにも対応できるように、様々な場面を想定した訓練が必要である。またヒヤリハットを記録として出す体制がまだ十分でないので、より意識を高くして安全な体制づくりをしていく必要がある	B	A	・安全に遊ぶことのできる環境が整っている ・職員間での話し合いができていく	・毎月避難訓練を計画通り行うとともに、日々の保育の中で、紙芝居や絵本などで安全に対する意識を高めていく。さらに「予告なし」の訓練の日を設けたり、臨機応変に対応しなければならぬ日も設けて自分で考えて行動できるようにしていきたい ・園外への散歩の機会に、交通安全への意識付けを実践していく	
		(1)健康教育の充実	基本的な生活習慣が身につくように具体的にその大切さを知らせる工夫をしたり、保護者と家庭との連携を深めながら健康教育指導を行う	○毎日の繰り返しの中で基本的な生活習慣を身につけ、その一人一人の発達段階を保護者と共有し連携を図りながら保育している。その中でハンカチやティッシュを常に持つ習慣が身につけてきている。また手洗いやうがい等の感染症対策を日常生活の中で行うことで身につけてきている ○月に1度の食育の日にはイラストや実物を用いたり、給食では入っている食材について話題にして、体の中でのような力となるが伝えることで“食”の大切さについて知らせていくことで食育や食への意識を高めている	B	A	・身につけてほしい生活習慣、健康管理が子どもの発達に合わせた方法で提示され、子どもが意識して行うことのできる環境になっている ・食育の日には食材が提示され保護者も展示しやすい配慮がなされている。また四季の行事の食育も展開されており子どもが季節を楽しむ工夫がされている	・ハンカチやティッシュの携帯の定着、手洗いうがいの徹底など、日常における感染症対策を引き続き行っていく ・栽培し収穫した野菜を昼食時に調理して食べたり、毎月の「食育の日」には様々な内容の食育活動を行ったことで食への関心や意欲につながることができた。来年も引き続き行っていきたい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の状況を把握し、支援方法を園全体で周知し、関係機関との連携を築き、よりよい育ちに繋げていく	○サポートプランを作成し一人一人に合わせた支援を行った。園全体で年5回のケース会議の機会を設け、一人一人の様子や支援方法について話し合うことで、園全体が同じ支援の仕方での育ちを見守っている ○療育施設の園訪問など、関係施設との連携を図っている	B	A	・保育の中に特別な配慮が必要な子どもをはじめ、一人一人に寄り添ったきめ細かな支援が見られる。園全体で行うケース会議を通して、園全体が同じ支援の仕方での育ちを見守っている体制は評価できる。関係機関との連携、個別ケースの会議、研修等を充実してさらに職員の方の力を高めていってほしい	・ケース会議等で子どもの姿や保育教諭のかかわり方、手立て等を話し合い、共通理解を図った上で適切な支援ができるようになっている ・サポートプランを定期的に立て、保護者との面談を通して家庭との連携を深め、子どもの育ちを保護者と共に見守っている。今後も引き続き家庭とのつながりを重視していきたい	
		(1)組織体制の充実	年間の見通した保育計画を実践し、定期的に反省評価を行い、課題改善に努めている	○年間の保育計画に沿って保育を実践し、月案検討・反省を毎月実施することで、保育を振り返り子供の成長を感じたり自身の反省点を見つけたことが出来ている。また、全学年の子どもの様子や教育保育の内容を把握できるようにすることで様々な意見やアイデアを吸収したり、改善できるようになっている ○感染症等で予定が変更や中止になった場合にも、柔軟に対応できている	A	A	・園長の教育構想を基にして、職員の研修テーマ、遊び改善構想が考えられており、その構想に沿って各クラスの保育計画が作成されている。職員が互いの実践を共有し、評価改善するシステムがあり、PDCAサイクルが確立しているといえる。園だよりを通して、園の運営方針や保育の成果を子どもたちの姿で保護者に伝え、家庭との連携を推進している	・年間予定を計画通りに遂行し、教育保育や一つ一つの行事について自己評価をする中で課題を見つけて改善に努めている。また、自分の分掌に責任を持ち、企画・運営・実践を行うことが出来た。来年も引き続き行っていく
6 研修	(1)研修体制の充実	研修を核とした園運営を大切に自信や意欲や思いやりが育ちあう援助の在り方を周知し、自園の望ましい子どもの姿の実現に心がける	○各クラス遊び展開図を記入し、現在の子どものあそびがどのようなものであるか、また発展・継続するためにはどのような環境・援助が必要であるか、目で見えてわかるようにし、共有できるようにしている ○研修主任を中心に年間計画に基づいた研修や毎月研修計画に沿った園内研修を行ったり、全員で対応する課題について随時話し合いを持ったりするなど、職員間で十分話し合う機会を持ち、学期ごとに反省の機会を設けることで改善策・対応について園全体で周知し学びを深めている ●日々の行事準備等に追われ、遊び展開図を十分にすすめられていないことがある	B	B	・「もっとやりたい、もっとこうしたい」という子どもの思いを引き出す環境作り、保育教諭の援助が保育の中でのいたるところに見られる。少人数ならではの保育の難しさがあるが、研修テーマを意識して地道に取り組んでいる。遊び展開図は子どもの興味関心を探り、遊びを充実させるよい手だてとなるので研究を期待したい	・全クラスの公開保育を行った中で、研修主任を中心とし研修テーマを意識したり課題を持って話し合った遊び展開図をもとにした話し合いをしてきた。来年度も遊び改善構想の研修テーマを意識して公開保育事後研・園内研修を深めていきたい ・外部の研修にも積極的に参加し、園での教育保育に活かしている	
		(1)教育・保育環境の充実	多面的に子どもを捉え、一人一人の個性や創造性の芽生えを引き出し、あそびの充実感が得られるような環境を構成していく	○保育教諭がさりげなく教材・環境を整え、方向性を示したり意欲を高めたすることで遊びが発展できるようになっている。また子どもが興味関心を持って「やってみよう」と思うことに対して、保育教諭が受け止め柔軟に対応し、子どもの思いを実践できる環境を作ったり再構成したりすることで「またやりたい」という子どもの思いを引き出し、毎日笑顔で登園する姿につながる環境を構成している	B	A	・いろいろな教材を使用し、子どもが興味を持ったことを尊重し、見守ることが出来ている ・一人一人が使用できる範囲が広く、のびのび遊ぶことができていく	・子どもが今どこに遊びの楽しさを感じているか、次はどのような展開になることが予想されるのかを読み取り、子どもたちの「もっとこうしたい」という思いを実現できるように教材や可動できる用具を用意し、自分たちで遊びを展開できる環境づくりをしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	一人一人を肯定的に受け止め、個性を引き出す保育の実践を登降園時やお便り・写真等で保護者に伝え、よりよい信頼関係を築いていく	○登降園時に一人一人の活動や成長・頑張りや保護者に直接伝えたり保護者からの話も聞いたりすることができ、信頼関係構築につながっている。また毎月のお便り（園だより・クラスだより・行事前後のおたより等）やドキュメンテーションで写真を用い、子どもたちの遊びの様子や行事への取り組み、友だちとのかかわり等での、経過・成長について知らせようとしている	A	A	・活動が写真で玄関に掲示されており、送迎時に見ることが出来る。月のお便りにも園での活動がわかりやすいように写真が載っている ・保育教諭は送迎時に一日の様子を細かく報告してくれるので、保護者の安心につながっている	・送迎時に保護者と直接話をしていくが、駐車場の関係でゆっくり話ができないため、必要に応じて話を聞く時間を設けたり保護者が安心できる体制を整えていきたい ・写真を用いたおたより（園だより・クラスだより）、行事の掲示を行い、保護者にわかりやすく保育の様子を伝えるよう工夫している。来年も引き続き行っていく	
		(1)近隣の園との連携の推進	公開保育などでの交流を積極的に行い、教育を通し近隣校との連携を深めている	○職員が年に一回以上他園の公開保育に参加し保育を実際に見たり、自園の公開保育を行うことで外部からの見解を知る機会となったことで、自身の保育を振り返り改善につながっている。また小学校とは公開授業や公開保育を通じて子どもたちの情報交換をしたり連携を深めている ●コロナ禍で交流する機会が減ってしまっている部分もあるので、近隣園や小学校とのつながりが持てたらよりよい繋がりができると思う	B	A	・近隣の南薬科小学校と交流があり、学校の行事の見学・参観に行くことができ、とても良い関係がある	・コロナ禍で連携が取りづらくなったこともあったが、学校の行事や校内見学をさせてもらったことで子ども達の就学への期待が膨らみ、安心感も持てる様になった。来年度は更に園児と児童が関わる機会を持てるよう連携をとっていききたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域との交流を積極的に参加したり、豊かな人材との触れ合いを大切にしながら地域に根差した教育保育を推進する	○地域との交流では、地域の施設に向け踊りや歌をビデオ撮影で届けたり（年長のみ訪問）、たけのこ掘り・出川自然観察・いも掘り・散歩等、コロナ禍での可能な関わりを模索しながら、地域とかかわりを持つことのできる行事を行っている	A	A	・地域の方と、たくさんの行事で交流できている	・老人福祉施設とはビデオメッセージを利用しコロナ禍の中でも関わりを持つことはできたが、より身近に感じられるよう園でも地域のことや近隣の施設について話題にして知らせたい ・豊かな地域の自然に関心を持った体験（たけのこ掘り・出川自然観察）をすることができたが、来年度は更に散歩の機会を増やし、地域の方々との関わりを増やしていきたい	